

公益法人 第14期

2024（令和6）年度

事業報告

2024年4月1日から
2025年3月31日まで

公益財団法人
ベルマーク教育助成財団

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業1は、参加団体（学校等）がベルマークを集め、自校の設備を充実させることを財団がお手伝いします。ベルマーク運動の本体ともいえます。

公益事業2は、事業1にともなって財団にいただく寄付を原資に、生徒数が少なくマーク集めが困難なへき地校、災害被災校、特別支援学校等に財団が教材を寄付します。

ベルマーク財団は事業2を実施するために事業1の仕組みとともに、1960年に設立されました。

2つの公益事業と、それを安定して継続するための財団運営にわけて、2024年度に実施した事業を報告します。

《公益事業1》

◆参加団体の動き

参加団体数は25,458団体（2025年3月末）

2024年3月末比で△330校です。少子化による学校統廃合などで全体として微減の傾向は続いています。団体の過半を占める小学校の参加率は71.9%、中学校は61.5%とほぼ前年と同水準を維持しています。

〈参加団体＝学校等〉25,458団体

	2025年3月末	2024年3月末	増減
参加団体数	25,458	25,788	-330
幼稚園	4,405	4,508	-103
小学校	13,539	13,708	-169
中学校	6,074	6,126	-52
高等学校	1,155	1,158	-3
大学	93	96	-3
公民館	192	192	0

・協賛会社数は43社です（2025年3月末）

2024年4月にリネットジャパンリサイクル株式会社が協賛加入、9月にマルニが退会しました。

・協力会社数は13社です（2025年3月末）

・参加団体の1年間の検収点数は2億1,391万点
2024年3月末比で72.0%です。2024年度は財団の新しい基幹システム導入の対応や、検収作業に従事する職員退職によるマンパワーの減少で、集票が低下しました。財団基幹システムが安定稼働に入り、職員の補充もあり、2025年度は改善を見込んでいます。

2024年度 213,916,567点 (前年度比 72.0%)

2023年度 297,074,925点

ベルマーク運動が始まった1960年からの累計集票点数、30,038,628,472点、ベルマーク預金として累計300億円を超えました。

・参加団体のお買いものの額 3億5,376万円

協賛会社から提供いただいたお金と、これまでのベルマーク預金を合わせて、参加団体がこの1年間で購入した教材費等の金額です。原材料価格の高騰などの影響を受けた一方、学校行事の復活に伴って、新たな備品などの購入の動きが活発となり、前年度比103.7%となりました。

2024年度 353,762,133円 (前年度比 103.7%)

2023年度 341,046,126円

1960年からの累計は、29,221,565,302円＝約292億円になりました。

◆ベルマーク運動説明会

参加団体の安心・安全を考慮し、説明会の代替として、財団ホームページ上に説明会で配布していた資料や各協賛会社の最新情報などを「バーチャル説明会」としてアップし、PRに努めました。

◆ホームページ・刊行物

・財団ホームページ

参加団体に必要な情報をできるだけ迅速に発信しています。各協賛・協力会社にとっても企業情報を知らせる魅力的なページとなるように情報を積極的に掲載しています。また、「ベルマーク活動報告書2024」として、2024年度のベルマーク財団の活動がまとめてわかるように、電子データ版を掲載します。

◆学校外での集票

個人や企業などのボランティアのマーク集めはますます拡大しています。企業や自治体、個人から財団に直接送られてくる寄贈マークは件数で今年度も前年

度を上回りました。財団へ直接マークを寄贈できるPRを継続していることが増加要因と考えています。2024年度の寄贈マークは6,466件に上りました（前年度比107.8%）。

◆ベルマーク大使

2024年度は、14名の方々（運動の牽引役、熱心な協賛会社の方、発信力のあるタレントさんなど多彩な顔ぶれ）にそれぞれのお仕事、生活の場で、ベルマークの普及、応援にご尽力いただきました。

《公益事業2》

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助した物品額は、2024年度総額で4,168万円相当でした。運動が始まってからの累計額は50億円を超えています。ベルマーク活動の原点であるへき地校の設備支援は、前年度同様100校に実施しました。災害で被災した学校への支援は、被災から13年が経過した東日本大震災被災校に対して継続して行いました。24年1月に発生した能登半島地震についても緊急友愛援助を募集し、6月まで受け付け、合計86団体から約260万円の支援が寄せられました。ただ、9月には現地を記録的な豪雨が襲い、さらなる被害が発生し、復旧活動に支障と遅れが出ましたが、石川県輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の各市町教育委員会の協力を得て受け入れ体制ができ、2025年度には被災した学校に順次支援が届く予定です。

援助先ごとの概要は以下の通りです。

◆へき地学校

総額2,186万円相当

- ・うち設備 全国100校 1,998万円 視聴覚・理科機器、体育用品など
- ・うちソフト支援12校 188万円 理科実験教室・一輪車教室を実施

◆諸学校

総額985万円相当

- ・養護学校 20校 視聴覚機材等
- ・盲学校 9校 卓上型拡大読書器
- ・聾学校 11校 短焦点プロジェクター
- ・病院内学級 3学級 希望の教材・備品等

◆災害被災学校

- ・東日本大震災（岩手・宮城・福島 計106校）総額600万円相当の学用品やバ

ス代援助等

総額には、財団の予算とウェブベルマーク協会からの助成を加え、ボランティアや企業、一般の方々が集めて財団に寄贈してくれたベルマークが含まれています。うち、教職員の防災力を高める取り組みをしている宮城教育大学「311 命を守る教育研修機構」に 50 万円を援助しました。

◆開発途上国の学校

総額 350 万円相当

アジア・アフリカなどで活動する 9 団体を通じ 9 カ国に援助しました。この援助は、参加団体（学校等）がベルマーク預金から寄付してくださる資金と財団予算をあわせて実施しています。参加団体からのこの寄付を友愛援助と呼んでいます。

◆日本人学校

総額 47 万円相当

アメリカ、イタリア、イギリス、インドの計 4 校に支援しました。

〈財団運営〉

◆システム改修

仕分け・集計簡素化のためのデジタル技術、画像認識技術等の導入へ向けた取り組みをめざす中、財団の新しい基幹システムを 2024 年 8 月から稼働させました。（報告 3 を参照）

◆2024 年度に受けた大口寄付

・ミズノスポーツ振興財団 2,000,000 円

1971 年から 54 年連続で総額 9,750 万円になりました。

・ジブラルタ生命保険株式会社 1,000,000 円

へき地校向け出前教室の充実への寄付です。

◆財団役職員数

➤ 常勤 14 人（2025 年 3 月 31 日現在）